

平成 13 年度自動車アセスメント実施要領（案）について

．チャイルドシートの安全性能等試験について

1．試験対象チャイルドシートの選定方法について

チャイルドシートの選定にあたっては次の原則に沿っています。平成 12 年 4 月から平成 13 年 3 月までの 1 年間の出庫台数の実績が上位のものから選定します。但し最近モデルチェンジしたものについては出庫台数を 1 年間に換算して台数を比較します。試験実施時点で市場において既に販売されていないと思われるチャイルドシートについては対象から外します。1 メーカー等あたり 3 型式を上限としています。チャイルドシートメーカーから申し出があったチャイルドシートも対象とします。評価試験で用いる自動車の座席シートに取り付けが不可能とユーザーに告知しているチャイルドシートについては対象から外します。学童用及びベッド型のチャイルドシートは対象としません。

2．評価試験項目及び試験結果の公表内容について

比較試験は次の試験を予定しています。試験の実施は自動車事故対策センターが行います。公表にあたっては、小冊子、HP 等を用い広く公表致します。また自動車の安全装置の装備状況やチャイルドシートの正しい取付方法等についても公表します。

評価試験は、（1）前面衝突試験と（2）使用性評価試験を行います。試験は自動車事故対策センターが担当します。

（1）前面衝突試験

骨組みのみで組み立てられた自動車（エスティマ）の 2 列目に座席を取り付け、その座席の右側にチャイルドシートを装着して、乳児用チャイルドシートには乳児用ダミーを、幼児用チャイルドシートには幼児用ダミーを搭載し、時速 55 km での前面衝突時と同様の衝撃を発生させ、ダミーに発生する傷害等の程度を評価します。また、試験実施に用いる座席シートは、実際の自動車の座席シートをそのまま用います。



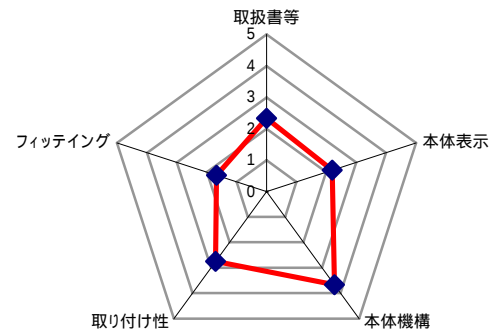
乳児用シートは、ダミー頭部先端部の移動距離、胸部合成加速度、シート背もたれの角度、取付部の破損状況、バックルの解離性等を評価します。幼児用シートは、ダミー頭部の移動量、頭部、胸部の合成加速度、取付部の破損状況、バックルの解離性、衝突時に子供に危害を与えないか等を評価します。[（別紙 1 参照）](#)

公表は、「優」「良」「普通」「推奨せず」の 4 段階で公表します。

（2）使用性評価試験

ユーザーによる自動車の座席への確実な取り付けがしやすいように配慮されているかなどについて、使用実態を反映した5つの評価項目（取扱説明書、本体表示、本体機構の安全性、取付性、装着性）に複数名のチャイルドシート専門家による判定を行い評価します。

評価項目毎に平均点を算出し、レーダーチャートで公表する予定です。[（別紙2参照）](#)



レーダーチャートの例

．自動車の安全性能等試験について

1．対象車種の選定方法について

対象となる車種の選定は、次の原則に沿っています。直近6ヶ月の販売実績が上位の車種から選定します。但し最近モデルチェンジしたものについては前のモデルの販売実績等も考慮しています。早期にモデルチェンジが行われる予定の車種は選定しません。

1メーカーあたり6車種を上限としています。これまで実施した車種は除きます。自動車製作者等からの申し出による車種も対象とします。

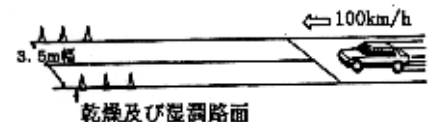
2．比較試験項目について

比較試験は、高速ブレーキ試験、フルラップ前面衝突試験、オフセット前面衝突試験、側面衝突試験を予定しています。試験は自動車事故対策センターが担当します。

（1）高速ブレーキ試験

自動車を乾燥路面及び湿潤路面において、時速100kmから急ブレーキをかける試験。

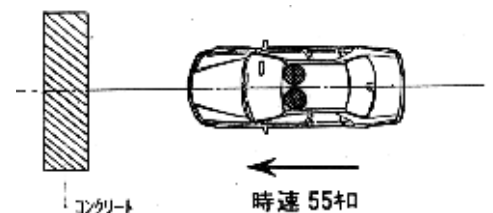
停止距離を測定し公表します。幅3.5mの車線からはみ出したかどうか確認します。



（2）フルラップ前面衝突試験

運転者席及び助手席にダミーを搭載した自動車を時速55kmでバリア前面に垂直に正面衝突させる試験。ダミーに与える衝撃が大きいため、その衝撃を緩和するためにシートベルト、エアバッグ等の乗員拘束装置及び車体の衝撃吸収性能の評価に適しています。

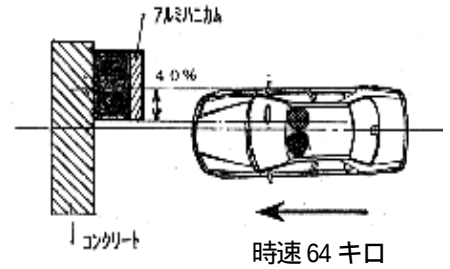
ダミー各部位の傷害値と車体変形量を計測し5段階評価で公表する予定です。さらに、ドアの開扉性、乗員の救出性並びに衝突後の燃料漏れの有無について評価し公表する予定です。



(3) オフセット前面衝突試験

運転者席及び助手席にダミーを搭載した自動車の運転席側一部(車幅40%)を時速64kmでアルミハニカムに垂直に前面衝突させる試験。車両の一部で衝撃を受けるため、車体変形が大きく、乗員の生存空間等の評価に適しています。

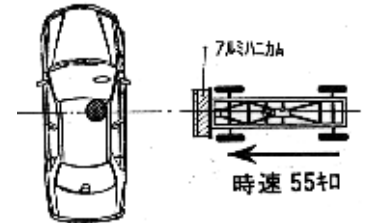
評価方法はフルラップ前面衝突試験と同じです。



(4) 側面衝突試験

運転者席にダミーを搭載した自動車の運転者席側の側面に時速55kmで台車を衝突させる試験。

ダミー各部の傷害値を計測して、5段階評価指標で公表する予定です。さらに、ドアの開扉性、乗員の救出性並びに衝突後の燃料漏れの有無について評価し公表する予定です。



(5) 総合評価

運転席に関しては、フルラップ前面衝突試験、オフセット前面衝突試験、側面衝突試験の3種類の衝突試験の結果を6段階評価指標で公表する予定です。また、助手席に関しては、フルラップ前面衝突試験、側面衝突試験の結果を運転席と同様の方法で公表する予定です。